羽仁もと子「家庭教育と信仰」

令和５年１２月３日（日曜日）大祓　　こうとくにんげん塾 #330

家庭教育の大いなる基礎となるべき信仰について申し上げます。この書をお読みになる方の中には、仏教を信じる方も基督教（キリスト）を信じる方も、別に宗教を信じない方もあるでしょう。または神とも仏ともいわず、単に天として至誠の源を信じるにしても、良いことに対する同情がこの宇宙にあることを信じない方は少ないでしょう。

子供の心を善良かつ高潔にし、また強くするためには、是非ともこの信仰を子供の心に入れなくてはなりません。人の心は理屈ばかりでなく感情を持っている以上、良いことをするのは人間の務めであると承知させたばかりでは、心から良いことをしたいという気になりません。

良いことは人間の務めであることを知ると共に、感情においても是非とも良い人になりたいという熱心な希望がなくてはならないのです。この希望を持たせるために、ある母親は「坊やは日本人ではないか」と教え、またある人は「お嬢さんはおとなしいと皆さんが褒めてくださる」と申します。しかし、日本人日本人とあまりに言い過ぎると、自ら高くして他を卑しむ良くない感情を養い、他人に褒められることも褒められるために良いことをするようになります。

そうなると、行いは良くても心の持ち方は卑しくなります。世間の称賛は必ずしも確かではありません。金持ちがもてはやされ、人格の光は人の目に映りにくい世の中にあって、もしも世の誉（ほまれ）のために自己の行為を左右される人であったなら、その人は正しい方に行かず、自然に世の低い人気に向くようになりましょう。

国のためにその身を捧げた忠臣義士の美談を語って、その子の性質を発達させることも、これらはたまたまの変事に際しての良い行いであるために、この話が子供の生活に及ぼす感化は少なく、これを聞く子供の心はその名誉を羨望（せんぼう）して、自分もそのような心がけを持っていれば同じ名誉を得られると考える傾きになります。

世上（せじょう）の毀誉（きよ）（けなすこと・ほめること）は前にも言ったように、ことごとく正しいものではありません。子供仲間にしても、暴れ者のガキ大将は多くの場合において

幅をきかせますが、普通の子供は正直な心がけを持っていても、それによって多くの聞き分けのない子供を服するまでにはゆきません。

名誉の冠（かんむり）を置いて子供の心を鼓舞する教え方は、かえって子供を失望させるもとになります。子供の心を真に善良に高尚にしようと思うなら、心から善そのものを慕うように教えなくてはなりません。「名誉ある人になりたい心」から良いことをするのではなく、その結果を念頭に置かずに、ただ喜んで善をなす考えで教えなくてはなりません。

それには、母にも勝る神の愛の、熱心にすべての人のために善を乞い願い、本当に小さな良いことでも神は喜んで受け入れ給うことを知らせ、人の知ると知らぬとに関わらず善をなすことを楽しむ習慣を養ってやりましたなら、忠臣義士の話を聞いても、その感ずる所は名誉に対する羨望（せんぼう）ではなく、真にその高潔な心魂にあこがれ慕う情を持つようになるでしょう。

このような心がけを持って、子供ばかりでなく、自分も共に同じ修養の道程にあると心得、天の愛護を信じて、人の高尚な道を楽しみ勇んで進むようにするならば、過ちなしに子供の徳性を導くことができるかと思います。自らも神を信じず、天のことを度外に置いて、ただ周囲の人の毀誉褒貶（きよほうへん）とこの世の成敗のみを心にかけて子を育てる母親は、多くの知恵を持ち、多くの力を持っていると思っても、その知恵と力は実に浅はかなものであります。（以上、P.75-80）

出典『羽仁もと子選集～おさなごを発見せよ』（婦人之友社）

※羽仁もと子＝明治 6 年（1873）－昭和 32 年（1957）、日本における女性ジャーナリストの先駆け。自由学園および婦人之友社の創立者。家計簿の考案者としても知られている。

今　後　の　予　定

歳　旦　祭	元　　日	午前１０時
五　穀　祭	2月　4日（日曜日）	午後０時１５分

鎌ケ谷市コミュニティバス「ききょう号・東線」をご利用ください。

【行き】新鎌ヶ谷駅 午前 11 時 47 分発、東初富公民館 午前 11 時 59 分着

【帰り】東初富公民館 午後 1 時 26 分発、新鎌ヶ谷駅 午後 1 時 37 分着